



上里メソッド

数字を正しく書く練習をします。  
2Bの鉛筆を使って、数字を声に出して読みながら書くようにしましょう。  
数字の5や7の書き順は特に注意しましょう。

すうじの書き順を確認してから、「イチ」など  
書くすうじを声に出して読みながら点線をなぞりましょう。

0はすこしみぎから  
かきはじめるよ


		4
		5
		6
		7
		8
		9





上里メソッド

数字を書くことも、自分が思った通りに鉛筆を動かしてこそです。  
リズムよく書いて、少しくらいはみ出しても曲がっても気にせずに書きましょう。

すうじの書き順を確認してから、「イチ」など  
書くすうじを声に出して読みながら点線をなぞりましょう。  
点線のないマスにも左上のすうじを書いてみましょう。

8	8	8
9	9	9
10	10	10
23	23	23

9	10	11
12	13	14
15	16	17
18	19	20

10より おおきいかずも たくさんかぞえよう!  
ずいぶんと おおきいかずなんだな〜ってわかるよ。





上里メソッド

数字の書き順を覚えてきたら、数字を読みながら書きましょう。  
声に出しながら書くことが大切です。  
算数の基礎力は、とにかく数えることでついていきます。

書き順を確認してから、上のすうじを下の枠に書いてみましょう。

「11」を書くときは、「イチ、イチ」と書くのではなく

「ジュウイチ」と言いながら書きましょう。

01	02	03	04	05
06	07	08	09	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

まずは よむだけでもいいよ。  
すらすらよめるようになったら、かいてみよう。

71	72	73	74
75	76	77	78
79	80	81	82
83	84	85	86

1 にち 1 ぎょうでもいいよ。  
かかなかったところはよんでみよう!





上里メソッド

数と形の概念を育てます。計数、計算、図形認識などを訓練します。  
数えるときは、必ず声を出し、指で触りながら行うことが大切です。

○が いくつ ありますか。□に すうじを かきましよう。

○	
○ ○	
○ ○ ○	
○ ○ ○ ○	
○ ○ ○ ○ ○	
○	
○ ○	
○ ○ ○	

かぞえたすうじを かくときに、  
すうじが わからなかったら  
おしえてもらって かいていいよ

○が いくつ ありますか。□に すうじを かきましよう。

○ ○	
○ ○ ○	
○	
○ ○ ○ ○	
○ ○ ○ ○ ○	
○ ○ ○	
○ ○	

このやりせ方であっているかな？  
と思った場合は…仔羊幼稚園で実  
際に子どもたちが取り組んでいる  
動画を見て、参考にしてください。





簡単にできる問題でも、面倒くさがらずに決められた手順を守ることが大切です。  
 やった問題は正しいかどうかを必ず本人が確認しましょう。

上里メソッド

すうじの <sup>かず</sup>数だけ ○を <sup>か</sup>書きましょう。

1	
3	
5	
2	
4	
3	
5	
2	

すうじの <sup>かず</sup>数だけ ○を <sup>か</sup>書きましょう。

2	
3	
1	
5	
2	
0	
4	
3	

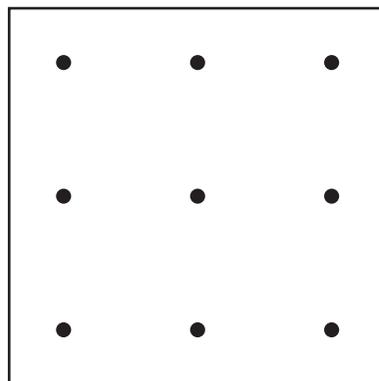
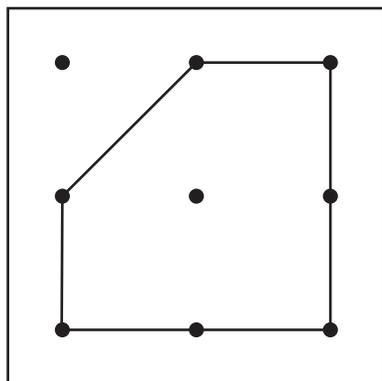
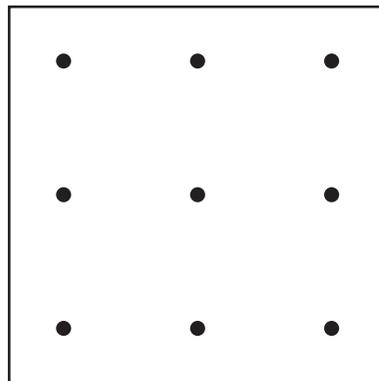
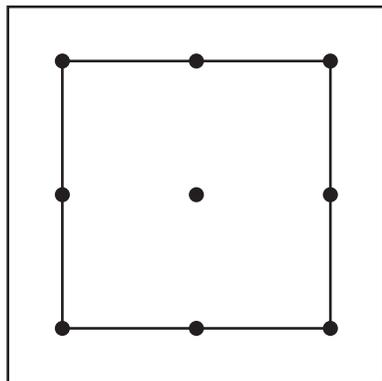
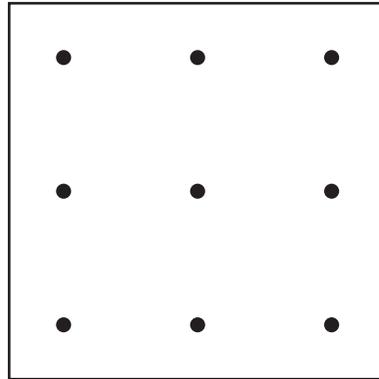
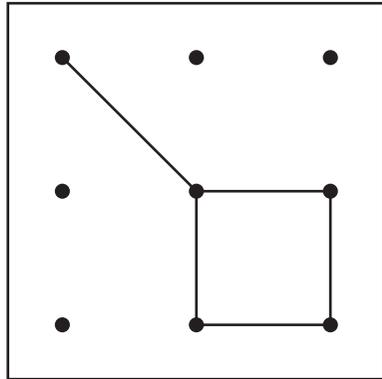




上里メソッド

何かを教えるときに、誰かと比べて遅すぎるとか、適齢期ではないから時期尚早だと考えるのではなく、その子が学ぶレディネスができていると直感したその瞬間が好機なのです。幼児でも100以上の数の感覚をつけることはできます。

おな  
同じ かたちを か  
書きましょう。



すうじの <sup>かず</sup>数だけ ○を <sup>くろ</sup>黒く ぬりましょう。  
○をなぞってから なかを ぬりましょう。

4	
3	
5	
2	
1	
4	
5	
2	

くろくぬるのは、  
サササッとでいいよ。





上里メソッド

幼児は「好きな人」に「さあ、〇〇をしよう！」と言われたら、すぐにやりたくなりますがそれはほんの一瞬なので、「ちょっと待ってね、今、用意するね」と言って、ゴソゴソ十秒程度でも準備をしていたら、もう心は冷めてしまいます。

あいている ところに ちょうどいい すうじを <sup>か</sup>書きましょう。

0	1			4	5
---	---	--	--	---	---

0			3	4	5
---	--	--	---	---	---

0	1	2			5
---	---	---	--	--	---

		2	3	4	5
--	--	---	---	---	---

0	1	2	3		
---	---	---	---	--	--

0	1			4	5
---	---	--	--	---	---

0		2		4	5
---	--	---	--	---	---

おな 同じ ところを <sup>くろ</sup>黒く ぬりましょう。

□をかいてから なかを サササッと ぬりましょう。

■			
	■		
		■	
			■


			■
		■	
	■		
■			


	■		
■			
			■
		■	


しょうがくせいの さんすうで でてくる  
ぼうグラフをかく れんしゅうにも なっているよ



ダウンロード



上里メソッド

右脳はパターン思考の中核であるため、幼児期に大いに鍛えておくべきです。パターン思考は五感を働かせて直感する思考ですから、色や形、音、におい、痛い、熱いといった刺激を肉体に敏感に受け取って反応できる年齢=幼児期に伸ばすのが最適なのです。

おお  
大きいほうに ○を つけましょう。

ワ	ワ	ツ	ツ
カ	カ	ネ	ネ
ヨ	ヨ	ナ	ナ
タ	タ	ラ	ラ
レ	レ	ム	ム
ソ	ソ	ウ	ウ

あいてる ところに すうじを いれましょう。

2	○	4	5	○	7
4	○	6	7	○	9
6	○	8	0	○	2
8	○	10	3	○	5
0	○	2	7	○	9
1	○	3	4	○	6
3	○	5	2	○	4



上里メソッド

数のボリューム感がある子は、数字だけを見て計算を失敗することがなく、文章題を読んだときに数のボリュームをイメージしながら見当がつけられます。  
こういった●を数えるということだけでなく、日常生活で何でも数える習慣をつけてあげると、数のボリューム感はずきやすいです。

●が いくつ ありますか。□に すうじを <sup>か</sup>書きましょう。

● ● ● ● ●	
● ● ●	
● ● ● ● ●	
●	
● ● ● ● ●	
● ● ● ● ●	
● ● ● ● ●	
● ● ● ● ●	
● ● ● ● ●	
● ● ● ● ●	

○が いくつ ありますか。□に すうじを <sup>か</sup>書きましょう。

○ ○ ○ ○ ○	
○ ○ ○	
○ ○ ○ ○ ○	
○	
○ ○ ○ ○ ○	
○ ○ ○ ○ ○	
○ ○ ○ ○ ○	
○ ○	
○ ○ ○ ○ ○	
○ ○ ○ ○ ○	





上里メソッド

この○をかいて計算する方法をたくさん練習して、数のボリューム感をつけていきましょう。

けいさん しき 計算する式を「さん たす に は」のように声に出して読みます。

すうじのした すうじのかずだけ○を書きます。

か 書いた○がぜんぶでいくつあるか数えます。

「さん たす に は ご」というように声に出して読みます。

$1 + 1 =$	$4 + 1 =$
○ ○	
$2 + 1 =$	$3 + 1 =$
○○ ○	
$3 + 1 =$	$2 + 1 =$
○○○ ○	
$4 + 1 =$	$1 + 1 =$
○○○ ○	

$2 + 1 =$	$2 + 3 =$
$2 + 3 =$	$2 + 0 =$
$2 + 0 =$	$2 + 1 =$
$2 + 2 =$	$2 + 4 =$
$2 + 4 =$	$2 + 2 =$

